

議 事 録

(平成 28 年度 第 3 回総合教育会議)

日時：平成 28 年 12 月 15 日（木）

15:00～16:50

会場：市長室

出席者 笠岡市 市長 小林嘉文
笠岡市教育委員会 教育長 浅野文生
教育委員 廣井滋季 谷 喜一朗 三谷信恵 石井啓式
事務局 福尾教育部長ほか

事務局 それではただ今より，平成 28 年度第 3 回笠岡市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして，小林市長から挨拶をお願いいたします。

小林市長 （市長挨拶）

事務局 ありがとうございます。続きまして，浅野教育長より挨拶をお願いいたします。

浅野教育長 （教育長挨拶）

事務局 ありがとうございます。それでは，議事に入らせていただきます。

本日の案件は，「（１）平成 29 年度笠岡市一般会計教育関係予算について」と「（２）小・中一貫教育について」の 2 件でございます。

はじめに，「（１）平成 29 年度笠岡市一般会計教育関係予算について」でございます。これは，地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき，新年度予算の編成に伴い教育委員会の意見を聞くものでございます。

本日は，本市教育行政，教育環境の充実に資する事業などについて，皆様の率直な御意見，御提言をいただきたいと思っておりますので，よろしくをお願いいたします。

それでは，お手元に資料として「平成 29 年度予算要求の主な事業」をお配りしておりますので，これについて教育長の方から説明をお願いいたします。

浅野教育長 それでは失礼いたします。「平成 29 年度予算要求の主な事業」について端的に説明をさせていただきます。

(「平成 29 年度予算要求の主な事業」の説明)

小林市長 I C T の整備事業に関連して、島に行くといつも思うのですが、ネットが繋がりにくい。これに対しては、どういう対策を取りますか。

浅野教育長 これは環境整備しかありません。具体はどうなっていますか。

事務局 学校独自での環境整備をしても厳しい状況がございます。笠岡放送のインターネット環境を利用していますので、学校だけではなくて島全体の環境整備が必要だと思います。

小林市長 アンテナの問題で中継地を設ければ解決すると思いますが。

事務局 島の電波の状況もあり、市全体のことでありますので学校だけの話にはならないのかと思います。

小林市長 六島までは電波があまり届かず、特に北木島は中間地点ですが、立ち上げてからメールができるまでに 2 時間も掛かってしまう状態です。これでは仕事になりません。教育委員会がやるのが良いのか、情報関係なので総務部がやるのが良いのか分かりませんが、定住促進にも繋がることなので、検討してください。総務部に投げておかまいません。

事務局 はい。

小林市長 それから、私も最近よく学校に行きますが、クラスによっては少し落ち着きがない学校もあります。深刻な状態になる前に、臨機応変に直ぐ加配できるような体制はできているのですか。県に交渉しても時間が掛かるし、来年度からということになると対応としては遅くなるし、その間に問題が深刻化していくことになります。直ぐ対応できるように市の負担で加配予備員を置いてはどうですか。

浅野教育長 ある程度見込んで、空振りでも良いから市の加配をするということですね。

小林市長 そうです。

浅野教育長 はい。やる方向で進めます。

事務局 教育活動支援事業、それから市の非常勤講師の配置を含めながらやっていきたいと思っています。

浅野教育長 問題は講師が不足しているということです。早めに動けば一人くらいは確保できると思います。

小林市長 それから、笠岡独自の教育を打ち出したいと思っています。校長の権限は強いですが、笠岡市内の学校に来たらこれだけはやってねという事を作るべきだと思います。

例えば、白石島でキャンプをすとか、或いは北川に行って田植えを体験すとか、或いはカブトガニ博物館や竹喬美術館とか、或いは焼却場や火葬

場などの公共施設に行って、生まれてから死ぬまでの過程を小学校から中学校までの間に一度は見させたいと思うし、良い経験になると思います。毎日食べているお米がどうやってできるのか、北川小学校では学んでいるけど、中央小学校では学んでいないということがないように、笠岡の学校に入ったら最低限学ぶ事を1, 2, 3と打ち出したらどうかと思います。その予算も取って積極的にやって、笠岡ってこういうまちだったなあというのが残って、100人のうち何人かでもいいので帰ってきてくれれば、これが笠岡の今後を作っていくと思います。その辺りを熱くしたいですね。

浅野教育長 北木島に宿泊研修施設ができましたから、あれを売りにして全部の学校がそこで体験学習をできるようにしたいと思います。中央小学校のように児童が多くて入れないということもありましたが、極力、笠岡にいて島を知らない子どもは作りたくないと思っています。

小林市長 そうですね。

浅野教育長 島での宿泊研修施設を利用した体験活動を通して、『笠岡の島で楽しい体験ができたよ』ということもいるのかなと思いますし、それは一つ浮かんでいます。この辺りは独自の教育になり得ると思います。

小林市長 タブレット端末の画面から得る知識と、触って温度を感じたり食べて味を感じることは、田舎だからできることだと思います。東京に居ると人間の中に虫が居るという感覚ですが、田舎ですと虫の中に人間が住まわせていただいている感覚になります。そういう感覚を持つか持たないかで、その後の人間形成の上で、もの凄く違うと思います。

事務局 それでは委員の皆様から、それぞれ御意見、御提言をいただきたいと思います。

廣井委員 重点的な事業は、先ほど教育長さんが説明したとおりですが、その中でも特にということで、外国語指導助手（ALT）の配置事業の拡充をお願いします。平成28年度から2名増えて9名になりましたが、更に2名程度は追加で配置していただきたいと思います。そうなれば、低学年の外国語活動の時間数が増えたり、幼稚園での活動も可能になると思います。

それから、市長さんもおっしゃったように、障がいを持った子どもたちへの教育活動支援だけでなく、何か問題があった時に迅速かつ柔軟に対応できるよう、市費での支援員を増やすことも大事だと思います。

そして、中学生のサマーチャレンジ学習支援事業も現在は3会場ですが、もう少し会場を増やせば、自分たちの学校の近くでできるのではという思いもありますので市長さんの支援をお願いします。

小林市長 分かりました。

石井委員 よろしいでしょうか。昨年から始まりました、CMで伝える地域自慢コンテストについてですが、子どもたちが自分たちの住んでいる地域の良さを発見して、それを宣伝することで、子どもたち自身も笠岡の良さが分かってくると思います。これは継続していただきたいと思います。

それから、空調設備も順次整備されていますが、昔の暑さと違って猛暑日という35度以上になる日数が増えています。早急に空調設備を整備していただきたいと思います。

そして、新聞でちょっと読んだのですが、公立の小中学校のトイレの洋式化率が全国平均で38パーセントと出ていました。笠岡は、そこまでいっていないので、是非こういった環境整備を進めていただきたいと思います。

小林市長 笠岡は何パーセントですか。

浅野教育長 30パーセントまで到達していないのでは。

事務局 はい。そこまでは到達していないと思います。全部のトイレを洋式化にすることは難しいのですが、各棟のフロア毎で1つは洋式化にするやり方で整備を進めております。現在、体育館などで洋式化ができていない学校もありますので、そこも合わせて順次整備しております。

小林市長 取りあえず、各棟のフロア毎で1つは洋式化にするやり方で整備を進めます。

石井委員 どんどん進めていただきたいと思います。

小林市長 空調に関しても順次整備しているようですが、幼・小・中学校の普通教室、特別教室、或いは給食室などを含めると、ざっとどんな感じですか。

事務局 現在まで、中学校と幼稚園の整備を優先してまいりました。その結果、中学校は平成28年度で概ね設置を完了します。島しょ部の中学校は平成29年度に設置する予定です。幼稚園は平成30年度に完了する予定です。小学校は平成31年度までに陸地部の設置を完了し、その後に島しょ部に入る予定です。

小林市長 島の調理室はどうですか。

事務局 島しょ部にある学校給食施設は、平成29年度に設置する予定です。市長さんからお話のあった真鍋小学校の学校給食施設も含めて、来年の夏までには設置したいと考えております。

小林市長 笠岡小学校は、いつ設置されますか。

事務局 平成29年度の予定です。

浅野教育長 平成29年度の夏に間に合うかどうかかが問題です。

事務局 通常は工事を夏休み期間中に行いますので、1学期には間に合いませんが、2学期から使えるようになる工程サイクルになっています。

小林市長 英語教育推進モデル事業で使うタブレット端末は、島しょ部と外浦に配備しているのですか。

浅野教育長 そうです。島しょ部と外浦の小・中学校に配備しています。

小林市長 それは、学校に着いたら持たすのですか。

浅野教育長 そうです。

小林市長 では、自宅で自習学習する時にタブレット端末を使うのではないのですか。

浅野教育長 はい。

小林市長 配備してから何年にもなりますか。

浅野教育長 平成27年度からですので、まだこれからです。

小林市長 それは、授業を受けながら自分で知りたいことがあったら調べて画面で見たりするのか、或いは先生が見ているようなものを子どもたちが同時に見るようなものなのか、どちらですか。

事務局 今は後者の方を中心にやっています。それから、中学校ではグループで話し合う時にもタブレット端末を使っています。

小林市長 朝の読書の時間に読む本がバラバラですね。内容は偉人伝かもしれませんが、漫画を読んでいる子もいれば、難しい化学の本を読んでいる子もいて、もの凄く差があります。タブレットを使って5種類程度の中から選んで読んでもらえば、求めているものが上がるとか、統一性が図れるのでは。

事務局 そういう使い方もできると思いますが、そのためには電子本を購入しなければなりません。

小林市長 ソフトの開発にはお金が掛かりますが、本の購入には、あまり予算は必要ないのではないのでしょうか。

今後、タブレット端末は増やす計画ですか。

事務局 次期指導要領の改定でデジタル教科書が導入されるかどうか、未だ決まっています。早ければ平成32年度から紙の教科書がデジタル教科書に変わる可能性があります。

小林市長 小・中学校の全員にタブレット端末を買ったら大変なことになります。そんな予算はありません。

事務局 教科書ですから、市で買いなさいということにはならないと思います。国が何らかの対応を取ると思います。

小林市長 それなら、それまで待った方がいいじゃないですか。

事務局 そうです。

浅野教育長 次期指導要領の改定が平成 28 年度末ですから、それが出れば計画を立てることができると思います。

事務局 学校配備にするのか、個人配備にするのかも含めて検討が必要です。

浅野教育長 谷委員さん、何かありましたらお願いします。

谷委員 予算はあまり掛からないと思いますが、放課後学習サポート事業、ホリデーチャレンジ及びサマーチャレンジをお願いします。サマーチャレンジは、先ほども話に出ましたが、最初は 1 会場でやっていました。学校の先生とは違った感覚で、年の近い大学生のお兄さん、お姉さんに教えていただくことが子どもたちにとっては良いのかなと思います。学習の底上げを図るこのような事業は、是非とも継続していただきたい。

それから、これも先ほどお話しに出ていますが、外国語指導助手（A L T）の増員をお願いします。昨年度 11 名をお願いしましたが、9 名の配置となりました。ここの部分は早い時期に増員をお願いしたいと思います。

小林市長 外国語指導助手（A L T）の踏み込みが悪いね。A L T の先生が何で日本語をしゃべるのかと思います。日本語をしゃべると何の意味もありません。子どもたちが分からなくても英語をしゃべり続けた方が良いと思います。

谷委員 それだったら、C D を聞かせた方が良いと思います。

小林市長 そうです。C D を聞かせた方がよっぽど安いです。

谷委員 それから、以前から思っていました、英語が母国語の先生でなくても優秀な東南アジアの英語がしっかりできる先生で十分だと思います。

小林市長 私も十分だと思います。例えば、マレーシアはイギリスの植民地でしたから、ネイティブな英語をしゃべる人はいっぱいいます。フィリピンもそうです。

谷委員 我々も近くの国の方が親近感があります。イギリス、アメリカ、オーストラリア以外の国から A L T の先生が入って来ても良いと思います。

小林市長 マニュアルができてないんじゃないの。小学生がどんなに日本語をしゃべろうが、常に英語で答えて欲しいとか。マニュアルをしっかり作らないといけません。そして、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの英語が母国語の人だけが選ばれているのなら、それは間違いです。

事務局 人選は業者に委託しておりますので各国いろいろな人がいます。当然、英語を母国語としている人が多いですが、御意見をいただきましたので参考とさせていただきます。

浅野教育長 三谷委員さん、何かありましたらお願いします。

三谷委員 私は英検とか漢検の受検料を負担していただけるということで、これを機

会に勉強が好きになったり、受けたことがない子がそれに向かって勉強することは良いことなので、是非とも予算付けをお願いしたいと思います。

小林市長 この背景には、自分の得意分野を一つでも良いから作って欲しいという思いがあります。自己表現できるものを見つけて欲しいのです。それが上へと引っ張り上げる要素だと思います。

事務局 ありがとうございます。それでは、「(1) 平成 29 年度笠岡市一般会計教育関係予算について」は、このあたりで終了させていただきます。

続きまして、「(2) 小・中一貫教育について」でございます。

まず、前回までの協議結果を御確認いただきまして、本日の協議に入りたいと思います。お手元に前回の総合教育会議（第 2 回）会議録をお配りしておりますので朗読により確認に代えさせていただきます。

（前回の総合教育会議【第 2 回】会議録の朗読）

事務局 それでは、これから「(2) 小・中一貫教育について」ということで、小・中一貫校の素案を事務局から説明させていただきますので、この案につきまして委員の皆様と御協議させていただきたいと思います。

（幼小中一貫教育の構想（素案）を説明）

事務局 ただ今の説明に対しまして、御意見、御質疑等がございましたらお願いいたします。

小林市長 まず、これは法律的には問題ないのでしょうか。

事務局 この素案は、特例として許可を受ける必要がありますので、是非、許可を受けたいと思っております。

小林市長 特例として文部科学省から許可を得られる環境はあるのですか。

浅野教育長 文部科学省の許可を得ることが一番の課題です。私の方で前文部科学省の教育調査官とパイプがありますので、そこで繋いで、それから更に文科省へ繋いでいこうと考えております。今までとは全く違うパターンですが、幼稚園が学校という考え方でいけば、できないことはないのかなと思っています。まだ結論は出ません。

小林市長 全国に例があるのですか。

事務局 例はありません。学校が隣接していて 5・6 年が動くケースはありますが、分離型でやるのは、たぶん初めてだと思います。

浅野教育長 市長の思いである、地域で子どもを育てて地域のアイデンティティを育てるという辺りのところや、4・3・2 制とか、その辺を我々も思ったのと、教育委員会も今年から就学前教育を充実させていきたいという思いもありまして、そうした時に小学校が空けば幼稚園をそこに入れ込んでいって、幼

稚園の先生と小学校の先生が交流できますし、幼児教育も小学校に繋がって
いって充実してくるのではないかと考えました。4年生の段階で2分の1成
人式をやって、4年生に意識を持たせることも必要かなと思います。ただし、
仮称ではありますが、この『敬業学園』という■■■■の校舎を母体とした■■■■
■■■■学校の構想は、まだまだ課題がございます。

小林市長 私の頃の小学校6年生のイメージでいうと、今の小学校4年生・5年生と
いう感じが確かにします。ですから、この4年生で切るということ自体の疑
問はあまりないのですが、3歳・4歳・5歳の幼稚園に通わせている親御さ
んにしてみたら、小学校に3歳から通わせるというのは、どうなのでしょう
か。ウエルカムですかね。ウエルカムのような気もしますがね。

石井委員 今の親御さんは、子どもを幼稚園に車で送迎していますが、幼稚園には駐
車場がありません。しかし、小学校になると車での送迎が楽になるので、そ
ういう面では良いと思います。

小林市長 そうですね。

谷委員 よろしいでしょうか。今回の素案ですと、中学校区を分割しなくて済みます
ので、同じ中学校区の中で公平性が保たれます。私は、今回の素案には賛
成です。

小林市長 なるほど。他の方はどうでしょうか。

廣井委員 よろしいでしょうか。総合教育会議の1回目と2回目は、市長が提案して
いる小・中一貫校の『敬業館』を、如何に今の笠岡小学校の場所に設置する
かということで話をさせていただきました。

私は、笠岡小学校だけを対象にした前回までの市長の提案には反対です。
理由は2つあります。1つは、先ほど谷委員さんが言われたように、西中学
校区を笠岡小学校とそれ以外の大井小と今井小に分ける形になることです。
そうすると、少子化が進む中で、分割により、更にクラス数が減ることにな
り、9年間ずっと1クラスで過ごすことになってしまいます。一定規模以上
の中で教育を行うべきであると考えないと賛成できない部分がありました。

もう1つは、市長が・一貫校の必要性を説明されますが、郷土愛を育てる
とか中1ギャップをなくすとか、その辺りは教育委員会が現在進めている
保・幼・小・中の連携教育を更に推し進めれば十分できることなので、現段
階では小・中一貫校の必要性はないと考えました。

しかし、この案をいただいた時に、これだったら教育委員会が現在進めて
いる連携教育を更に進める中で、ある程度の実現の可能性があるのでかなと思
いました。

ただし、先ほど教育長や事務局が言われたように、法律的なこととか課題が沢山あると思います。この案は、[]学区である[]、[]、[]を考えればこの形ができますが、全市的に広げるとなると小学校区の中に保育所しかない学区や同じ小学校区の中に幼稚園もあり、私立の保育園もある所もあるわけで、それは文科省と厚生労働省の違いがあって一緒にまとめることは非常に難しいことだと思います。それから、[]や[]の大規模校がある学区から小規模校の学区まで、同じように導入ができるのか疑問ですし、大変課題が多いと思います。とは言え、現在の校舎を使いながらなんとかできそうな案ですので、市内で一貫教育を進めていく中での1つの考え方としては、この案は良いのかなあとと思います。

小林市長 幼稚園舎も不用になるしね。

三谷委員さん、どうでしょうか。

三谷委員 この案をいただいて、未だ日が経っていないので自分なりに呑み込めていないところもありますし、机上の空論ということではありませんが、本当に実現できるのかなあと思いました。できたら良いですけど、関係機関への協議もこれからということですし、課題も多いようですので本当に全面的に賛成しても良いのかなという思いです。確かにわくわく感はありますが、私が幼稚園の親だったら、小学校5・6年の親だったら、どのような気持ちになるのか、その辺りが未だ整理できません。良いところも沢山あるし、面倒臭いこともあるなあという気がしました。それから、やっぱり今のままの小学校、中学校でも良いのではないかという気持ちも残っています。

市長さんの意見を反映して小・中一貫校を考えると、こういう案もあるのかなという段階で、未だ私自身悩んでいます。悪い案ではないけれども、本当に賛成しても良いのかなあと悩み中です。

小林市長 それも分かります。

浅野教育長 問題は特区として文科省から認めてもらえるかどうかです。可能性はあると思っています。

小・中一貫教育が求められる背景については、御存じのとおりですが、少子化による人口減少、それに伴って社会性の育成機能の低下、そういうことに対する懸念があるということ。それから、子どもたちの発達が早期化していて、昔で言えば6年生はもう今は中1でも何ら不思議はありません。

そして、中1ギャップです。笠岡市の場合は、あまりありませんが、問題が発生した時には対応ができますので、その辺りが国としての背景にあるわけです。

小・中一貫教育のねらいとしては、生徒指導上の成果を上げるとか、学習指導上の成果を上げることがあります。実際に小・中一貫教育をやったところは、成果が上がっているという話があります。しかし、課題も当然出てきますので導入当初はかなり負担感があったようです。ただ、それらは小学校・中学校で一体化を進めていく、或いは義務教育学校をつくっていくという中での話ですので、これは今までとは全く違うパターンです。幼稚園を入れていくというのは、これからの教育にとっては重要なのではないかと考えて、ここで入れております。保護者の方も小学校に来れば、こういう雰囲気为学校なんだなあと感じて帰ってもらえます。

小林市長 スクールバスのことですが、海外では極々一般的です。一旦、 地区の5・6年生の子どもたちが 学校に集まって、そこからスクールバスに乗って中学校に行くよりも、スクールバス専用のバスステーションを作って、そこに集まるようにしたら、一々小学校に集まらなくても良いと思いますし、そういう管理をすれば良いだけの話です。じゃあ 地区の中学生はどうするのという話になると、そこで5・6年生と中学生を線引きするのか、スクールバスの乗車を希望する人、或いは自転車を希望する人で分けても良いと思いますし、そこであまり線引きする必要はないと思います。バスだと読書ができるというメリットもあります。バスの運営費は、1台当たり年間で1,000万円程度だと思います。案では3台ですが、中学生も含めるともっと増えるのかもしれませんが。でも少々増えても別に良いと思います。大事なのは呼び名です。3歳、4歳、5歳、1年生、2年生、3年生と資料に書いてありますが、3歳を1年生と呼ぶかどうかの方が大事です。中学3年生を12年生と呼ぶかどうかです。海外では12年生というのはいくらでもある話です。12年生と呼ぶのか中学3年生と呼ぶのかで大分違います。私は12年生と呼んだ方が良いと思います。一貫校という意識が生まれます。学校が2つに分かれていますが、一貫教育をしているという意識に繋がると思います。3歳でも1年生と呼べるかどうかです。

学校の地元に見えたら、多分、ウェルカムだと思います。

浅野教育長 地元には何も話をしていませんので、方向性がはっきりしたら事前に入って行って話をしようと思います。

小林市長 こういう方向性で検討を進めていくかどうかを皆さんに了解いただいた方が良いと思いますが、どうでしょうか。

廣井委員 一人ひとり聞いていただければ良いと思いますが、この案で小・中一貫教育を導入するのであれば、反対ではありません。

ただし、この案を最初に進めるとなると、児童・生徒の数もそうですが、対象となる先生方も多いので、しっかりと準備をして理解をいただかないといけません。そして何よりも、しっかりと市民に説明し理解を得ることが必要だと思います。

また、長期的に見ると市内全域に一貫校を進めたときに、更なる少子化によって子どもの数が確保できなくなる心配もあります。この辺りもある程度は検討しておく必要があると思います。

小林市長 ■■■■■ に関しては楽観的に考えています。

廣井委員 統廃合の反対理由が、地域から学校をなくさないで欲しいということですから、学校がなくなるわけではないのでそういう理由から考えると反対は少ないと思います。

小林市長 高齢者はそうですが、親御さんにしてみたら複式学級になってまで頑張って学校を維持してもスポーツができるチャンスがないとか、教育レベルのこともありますし、色々と悩んでいます。でも、数年後に里庄の所に国道2号のアンダーパスができるじゃないですか。あれで馬飼や広浜の土地の価値が上がります。それから、桃の里病院が増築中で膨大な土地が今後更地になります。それをどこかが開発してくれれば人口が増える要素になります。

ですから、■■■■■の周辺は割と事業が立つような感覚があります。

浅野教育長 いずれにしても、全体ビジョンは必要です。それと、第1段階・第2段階が必要です。文科省で認められた場合に委員の皆さんがこの案で検討を進めてよろしいよということになれば、全体ビジョンを作成しますし、第1段階・第2段階をどうするかという検討も行います。

浅野教育長 谷委員さんは、いかがですか。

谷委員 先ほども申し上げましたが、前回までのように西中学校区が分割されることがありませんし、この案が文科省で認められれば■■■■■にとっても西中学校区全体にとっても受益があると思いますので良いと思います。

浅野教育長 三谷委員さんは、現段階ではファジーということでしょうか。

三谷委員 そうですね。不安が少しありますので、色々なデータや情報を自分なりに集めて、納得した上で御返事したいと思います。

浅野教育長 これは、一応素案としてこの方向で進めてよろしいですか。

小林市長 そうですね。疑問があればいつでもお答えします。

石井さんは、よろしいですか。

石井委員 はい。これから詰めることは色々あると思いますが、方向的にはこれで良いと思います。

廣井委員 心配なのは、これを詰めてデメリットが出たときに、早急に結論を出すのではなく、しっかりと時間を掛けて議論していただけるかということです。

第7次総合計画への反映に囚われることなく、是非、そうしていただきたいと思います。

小林市長 基本的に第7次総合計画の中に入れることになりますので、後1年あまりで煮詰めていただいて案として入れるかどうかだと思います。それを具体的に実行するというのは、その後の段階です。

浅野教育長 ■■■学校では地区の代表が集まる学校運営協議会が立ち上がっていますが、■■■・■■■・■■■では未だ学校運営協議会が立ち上がっていません。これらの学校で平成29年度に立ち上げてもらいたいのです。立ち上がれば、そこでこの案が示せて意見聴取ができると思います。

そうすれば、次の第7次総合計画の策定に向けていくらか見通しが立ってくるのではないかと思います。

小林市長 他の学校でもやりましようとなった時に、この案では■■■に5・6年生を受け入れられないでしょう。

浅野教育長 ■■■と■■■は、ちょっと待ってもらわないといけません。■■■は、保育所が一体型ができれば、そちらでできると思います。■■■も様子を見なければいけません、■■■は■■■に入ると幼稚園の保護者の送り迎えが非常に助かります。

後は島をどうするかです。■■■, ■■■は直ぐにでもできそうですが。

小林市長 それは直ぐできそうですね。

事務局 それでは、「(2) 小・中一貫教育について」は、この辺りでよろしいでしょうか。

委員 はい。

事務局 それでは、「(3) その他」ということで、市長或いは委員の皆様から何かございますでしょうか。

小林市長 ちょっとよろしいでしょうか。東京オリンピックが2020年にあります。これに向けてこれから試合が色々入ってくると思いますが、総合体育館にしても笠岡陸上競技場にしても、私は笠岡にこれだけのファシリティがあるので、こういう時にしっかり活用してもらって、練習風景を含めて子どもたちにレベルの高いスポーツを間近に見てもらうことも非常に役に立つと思っています。それに向けて必要な投資があれば、限界はありますが最大限の努力をしたいと思っています。

例えば、笠岡から初めてのオリンピック選手となったBMXの長迫さんは、東京オリンピックを終えたら笠岡に帰って来てBMXの指導者になりたいと言っています。それだったら、少し整備が必要かもしれませんが太陽の広場でBMXの中・小の大会ができるようにしたいし、どこかの国の練習会場として確保したいという思いがあります。他にもサッカーグラウンドとしては笠岡陸上競技場に良い芝がありますので、どこかの国が練習してくれたら良いなと思います。総合体育館もバドミントンやバレーボールなど、何でもというわけにはいきませんが、一種目くらいはどこかの国が練習してくれたら良いなと思います。それだけの物があるわけですから、ポイントを絞ってしっかりと誘致し、そのために整備が必要ならば市としても積極的に応援したいと思っています。何かアイデア等がありましたら、助言をお願いします。

意外と笠岡は近隣と比べて劣っている点があつて、それはスポーツなんです。その中でも照明施設なんです。今、17時前ですけどテニスもできない、サッカーもできない、野球もできない暗さです。照明がある場所は限られていて、古代の丘には立派な野球場もテニスコートも多目的グラウンドもありますが、真っ暗です。照明が全くありません。どこかの場所に照明を設置したいと思っています。

事務局

それでは、そろそろよろしいでしょうか。お時間も経過しております。

本日の議事は全て終了いたしました。以上をもちまして、平成28年度第3回総合教育会議を閉会いたします。皆様、お疲れさまでした。